
自己中少年と魔王っ娘

ピピピ・ピピピ・ペソくり丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自己中少年と魔王っ娘

【Nコード】

N3773BA

【作者名】

ピピピピ・ピピピピ・ペソくり丸

【あらすじ】

魔王。

何千年も昔に世界を統治していた者。

そして現在、その魔王の存在もただの伝説となり平和である世界にひとりの少年がひとりの少女に一目惚れする。しかしその少女は実は……自分の大事なもののためならどんなわがままも貫き通す少年と自分を犠牲にしても他人を守る少女の物語

自己中少年（前書き）

初の一次創作投稿です。

まだまだ力量不足ですが作品を書き進めて主人公達と一緒に成長していこうと思います。

他の皆さんもアドバイスがあったらよろしくお願いします。

自己中少年

「もう私に関わらないで。あなたは迷惑だから」

真つ黒な髪をした少女は諦めたかのように言う。

悲しみを含みながらも漆黒の瞳は少年を睨み付ける。

しかし少年は少女の言葉を聞いていないかのように黒い羽根を生やした執事服をした老人に剣を振り下ろす。

老人はそれを難なく素手で受け止め剣をはらう。

「君はそろそろ諦めたらどうかね」

老人は淡々と言葉を続ける。

「君は確かに他の人間と違って魔力を持っている。しかも結構な量だ。しかし私ほどではないし、戦いでの技量も私のほうが断然上。君が勝てる要素はひとつもない。お嬢様もああ言っておられます。どうかね、手を退いてはくれないかね」

老人は少年に言い聞かせるかのように言う。だが少年は関わらず剣先を老人に向ける。

「どうしてあなたはそこまでの。そんなにポロポロになって」
少女の言うとおり少年の身体はポロポロだった。服は所々破れ、出来ている傷口からは血が流れている。少年の身体はとてもじゃないが立っていられそうな状態じゃなかった。

「なんで私にそこまでこだわるの」

「別にこだわってねえよ」

今まで言葉を発つさず剣を振り続けていた少年が少女の疑問に答える。

「こだわりとかそういうのじゃねえんだよ。もちろん同情とかでもねえ。ただお前がいなくなると楽しくなくなるんだよ。だから絶対に連れて行かせない。だからな」

少年は少女の漆黒の瞳を真つ直ぐ見る。

「俺のわがままに付き合ってもらうぜ。キリア」

自己中少年（後書き）

何かおかしな点、誤字などがありましたら言ってください。自分じやあまり気付かないものなので

1話 出会い（前書き）

1話目投稿。

まだまだ慣れていないので文章が乱雑になっていると思いますが作者のために見てやってください。

プロローグとは時間軸がずれて魔王っ娘と出会う直前からスタートとなっております。

1話 出会い

朝、部屋のカーテンの隙間から朝日が射し込みさらにカーテンが遮光性でないためその光が漏れている。

そして時計の針が6時を示した途端に音が流れる。その音はベツトの上にある枕の横にある携帯電話から流れている。

今まで眠っていたベツトの主は目を開き、携帯を操作し流れていた音楽を止める。

その少年は背伸びをするとカーテンを開け部屋を出る。そして洗面所に向かい顔を洗う。

顔をタオルで拭いた後、洗面所に備え付けてある鏡を見る。

そこには寝癖とは思えないほどのボサボサの黒髪、その髪とは異なった色である蒼い瞳、世の中の一般的な高校生よりは整った顔が映っていて『篠原 尚輝』はため息を吐く。

「相変わらず俺の天パはすごいな」

尚輝はいつもように自分の天然パーマを嘆き寝癖を直していく。寝癖を直しても髪の毛はぼさぼさだが。

6

道路。

日課であるランニングを尚輝は行っていた。

そして道が別れる。いつもなら左に進む。

しかし今日は右へと進む。理由はどうってことない、そういう気分だったただけだ。

少し走ったところで公園を見かける。子どもが遊ぶための遊具が少しあるだけの公園だ。ただ公道に生えているものよりも樹齢を重ねた樹がある。

その樹の所に少女がいた。

しかもこの世界に数人しかいないというぐらいの美少女だ。

尚輝の黒髪よりも濃い黒い髪、黒い瞳そして身に纏っているドレスも黒。

その少女に尚輝はしばらく足を止めて見惚れていた。数秒。

尚輝にとってみれば永遠のような長い時間が過ぎると樹にいた少女は尚輝が見ていることに気付いたのか尚輝の所に近づいていく。

そして尚輝の顔の前にその少女の顔がやってくる。

(か、顔が近い)

高まっていた心拍数をさらに上げ、動揺する尚輝。そんな尚輝の様子には気付かないのか尚輝の顔をじっと見続ける。

「な、何か俺の顔に付いているのか(お、落ち着けえええええ、俺とりあえず怪しまれないようにしろ)」

いったいこの少女から何に怪しまれないようにするのか。尚輝はこれ以上はないほどテンパっていた。

「あなた」

少女は尚輝に顔を近付けたまま口を開く。

「今夜、もう一度この公園に来てくれるかしら」

(なんで)

尚輝がそう思っていると少女は尚輝の返事を聞かずそのままどこかへ行ってしまった。

「そっぴゃ、何時にここに来ればいいんだよ」

肝心のことを聞き忘れていたが何気に いや、かなりあの少女の気になっている尚輝であった

1話 出会い（後書き）

とりあえず千文字。

次は二千文字を目指そう。

アドバイスをよろしくお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3773ba/>

自己中少年と魔王っ娘

2012年1月14日10時47分発行